幻と剣を統べる幻想

残虐な人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
幻と剣を統べる幻想

【Ｎコード】
Ｎ８３７６Ｚ

【作者名】
残虐な人

【あらすじ】
ＮＡＲＵＴＯに転生したぜ！
まぁ～まず影分身でチート修行するぞ！
目指すは、幻術とブラッドレイの剣術で最強高速チートだ！
（サスケはアンチしまくります！ナルトは分かりません！）

プロローグ（前書き）

処女作です！生温かいめでご覧ください！

プロローグ

俺は、テンプレトラックに轢かれ

テンプレな場所でテンプレなクソ爺に会ってます！

こうなればみんな分かりますよね？

そうです転生します。それもＮＡＲＵＴＯの世界ですよ！テンション全壊です。もちろんチートも貰いました。（主人公紹介を見てください）

さて行くとしますか。

「じゃあ、行ってくるな」

そして、後ろですすり泣くクソ爺の声を無視して前に現れた扉をくぐった

その瞬間意識をうしなった。

（次の世界では、好き勝手生きるぞ！）

プロローグ（後書き）

超少ないですが、これからもできる限り更新するので見てください！

主人公紹介（前書き）

随時更新して行くんでよろしくお願いします。

主人公紹介

主人公
名前
うちは　ムクロ
性別　男　（前世の年齢１６歳）

貰った能力

万華鏡写輪眼（失明なし）
ハガレンのブラッドレイの戦闘経験
魔改造有幻覚（正確には、万華鏡写輪眼と本人の想像力で超強力に補正されているだけ）
限界突破（本人の認識で変わる、例えば、身体に限界がないと思えば身体能力が伸び続ける）

容姿
サスケとイタチを足して２で割り、落ち着きを持たせた感じ

性格
普段から落ち着いていて、大人っぽい。残酷だが、身内（サスケを除く）や認めた人には優しい。
怒ると手がつけられない。まあまあシスコン

設定

サスケの弟に転生する。三歳の時、能力と記憶が戻るようになっている。
また妹もいる（転生者だけどＮＡＲＵＴＯ知らない）超ブラコン（

主人公のほう）

主人公紹介（後書き）

俺が思うほど良い最強チートです。
これでならギリ火影を瞬殺しなくて済みそうです。
まぁ、本気だしたら瞬殺だけど

誕生と修行と妹

どうも～転生した　うちは　ムクロです。

もう、転生してから5年経ちました。

なに？今まで何してたかって。

う～ん、まず影分身しまくって、

チャクラを使いまくっ手チャクラ量増やして、

ついでにブラッドレイの剣術と有幻覚を完全マスターしました。（もち、万華鏡写輪眼も）

つか、剣術と有幻覚チートすぎ、だって剣術で木なんかスパスパ切れるし、

有幻覚なんか何でもできるし（何でも作れたよ、輪廻眼とか万華鏡写輪眼とか自分自身とか）

マジ怖いよ、強いよ

ここで報告です。

妹がいます！

いま4歳です、（転生者らしいけど原作知らないらしい）マジ可愛

いよ、だって、なんかわかんないけど

超懐いてるんだもん、どこに行くんでも付いてくるし、頭いいし、

ああ名前はリンね！

リンは俺が守る！（シスコン）

そうそう俺父さんと母さん嫌いだから

（イタチ兄さんに嫌ことやらしてるし！実力隠してる俺を見る目冷たいし）

うちはの虐殺は介入しないよ、まあ、リンは守る（サスケはウザいからどっちでもいい）

誕生と修行と妹（後書き）

さて次は、うちは虐殺です！
乞うご期待

うちはの終わりと始まり～　なんちゃって（前書き）

どうしても短くなってしまう～
どうしよう

うちはの終わりと始まり～　なんちゃって

ついにその日やって来ました。

そして、今血だらけのうちはにいます。怖いですね

うん？リンがどこにいるって、そりゃこんな危ないとこには、いないよ～

俺の有幻覚が森に連れてってるよ。抜かりなし！

お！イタチ兄さんが来た、もうサスケぼこし終えたのかな？まぁいい別れのあいさつでもするか。

「イタチお兄さん」

！！

「どうしたのそんな驚いちゃって」

「ムクロなんでそんなに落ち着いている！まぁいいここで眠っていろ」

そう言ってイタチお兄さんは、高速で身値打ちをして来た。

でも影分身チートとブラットレイの剣術、限界突破で鍛えた俺には止まって見える。だから俺は簡単にかわし、後ろに回り込み、有幻覚で作り上げた二本の剣を兄さんの首に付けた。

！！

「う！力を隠してたのか？」

「さすがイタチ兄さん話が早い、そうだよ、だってクーデターに利

用されたくなっかったもん」

「知っていたのか、もしや、なぜ俺がこんなことをしたのかもか？」

「そのとうりだよ、俺も殺すの？正直今戦えば勝率は五分だよ」

「いやお前はまだなんか隠してるだろ、それに俺にはお前たち兄弟は殺せない、だから木の葉を頼む」

「分かったよ兄さん、あとリンは、安全な場所にいるから心配しないで、じゃあまたね」

「ああ、また会おう」

あ～あ行っちゃったか～、少し寂しくなるな、まぁリンとこれからは頑張るか

うちはの終わりと始まり～　なんちゃって（後書き）

これからリンを強くしていきます。
あとヒロインはリンです。
う？近親相姦、そんなの関係なしで行きます。
乞うご期待

史上最強の弟子リン　まぁ～魔改造なんだけどね（前書き）

少し頑張りました。

史上最強の弟子リン　まぁ～魔改造なんだけどね

さて、ついにアカデミーに入学しました。

あとリンが一緒に入学したいとだだこねたからリンも一緒です。

でも、正直アカデミーのレベル低すぎる、だって忍術なんてほとんどしないし。忍びの心得とか、手裏剣

投げたりとかしか、しないんだもん。保育園と大差ないですね。

そこでリンには、俺が忍術を教えることにしました。リンもイタチ兄さんの真実を知って、これからは、

自分で自分自身と俺を守るんだとやる気を出していました。

そして今、修行をしています。方法としては、まず写輪眼を開眼してほしいので、幻術で精神世界に入れ

ひたすらギリギリの戦闘訓練をしています。

（正直心が痛いけど、これもリンの将来のためと思い心を鬼にします）

お！幻術が覚めたようですね。

「兄さんやりました。見てください」と言いながらほめてほめてと写輪眼を見せてきます。

「よくやりましたね。さすがは、俺の妹だ」とほめて頭を撫でてあ

げると犬や猫のように喜んでいます

（あ～和む、お持ち帰りしていいかな？）と思ってしまいますが、まだ一番重要なことが残っています。

「リンこれをもって、そこの所を押してみて」と言いながら拳銃を渡しました（幻術で分からなくした）

「はい！分かりました」そして押した瞬間、銃弾が俺を穿ちました。

「え、兄さん、なんで、なんで、兄さんーーーーーーーーーーーーー」

（あ～やば、罪悪感で死ねそう）と思いながらその様子を少し見てから立ち上がりました。

「リンどうしたの」

「え、兄さん、生きてるの、兄さんーーーー、
もう死んだと思って、私死ぬほど絶望したんですからね」と泣きながら言われました。

「ごめん、ごめん，これには理由があるんだ。鏡に映る自分の目を見て御覧」

「形が変わってる？」

「そうだよ、これがうちはの誇る最強の目、万華鏡写輪眼だ。さっきのは、このためだよ」

「そうだったんですか、でもさっきのようなことは二度としないでください。次もしも、したら兄さんを　殺して私も死にます」

ウッソーー、（かわいいな～）じゃなくて、妹がリンがヤンデレ化してしまいました。

ショックなような嬉しいような、俺は変態か！とつっこみつつ

「もう二度としないから、そんなこと言わないで」と堅く誓いました。

さて解説です

私はリンに打たれて死にました。（その証拠でリンが万華鏡写輪眼に開眼）

なぜ生きているのでしょう？

正解は

私の万華鏡写輪眼の右目の能力です。

名前は、夢現想

能力は、現実で起こった、あらゆる出来事を全て夢としてなかったことにするといったものです。

我ながらチ～トですね。

左目の能力もおいおい説明します

史上最強の弟子リン　まぁ～魔改造なんだけどね（後書き）

疲れた～死ぬ
誰か助けて～

ついに班決め（めんどいから、原作組とは嫌だ～）（前書き）

展開かなり早くない
スピードは落としませんけど

ついに班決め（めんどいから、原作組とは嫌だ～）

今、アカデミーを卒業しました。

やっと、あのウザいサスケの視線から逃げられると思うと最高です。

だって、俺とリンまで復讐しろとうるさいし、しないといったら今度は、敵対心を抱いて挑んでくるし

（たぶん、力隠してた頃の俺を見て勝てると思ってぼこしに来たんでしょう）

当然、ぼこぼこにしました。剣術は使わず、足払いを超連続でして、立った瞬間転ばして遊んだんですが

ね、メッチャ悔しそうににらんできましたよ。まぁ、そのサスケをリンが見下すような感じで見下ろして

いたんですけどね。その後、リンとも戦って、圧勝だったらしい（もちろんリンの）

そうそう、リンの実力ですが、単純な戦闘力なら変態蛇野郎より上

（だって、有幻覚でだした。写輪眼を埋め込んで失明なしの万華鏡写輪眼使えるし、螺旋丸とか千鳥とかも使えますし）

（もちろん、影分身チートしましたよ。）

でも、戦闘経験が少ないので、多分、カカシといい勝負でしょう。

お！先生が入ってきた、班が発表されるみたいですね。

どんどん、班が言われていきますが（原作と同じです）、全然呼ばれませんね。

お、原作組もそのままですね。

「第八班！うちはムクロ、うちはリン！、この班は二人の実力が高いので、バランスを取るため、二人だけとする。担当上忍は第七班の上忍に兼任してもらう。」

あ～最悪、リンと一緒なのは超うれしいけど、原作組と一緒じゃんも～う、めんどくさい

ついに班決め（めんどいから、原作組とは嫌だ〜）（後書き）

眠い眠い眠い眠い眠い〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

リンの紹介（前書き）

怖い
リン

リンの紹介

うちはリン

性別女　（転生前の年齢１２歳）

転生時に貰った能力

膨大なチャクラ、九尾の２倍（ムクロの約１０分の１）

学習能力（理解力が良くなる）

うちはの血（うちはに生まれてくる）

ムクロの魔改造の結果

万華鏡写輪眼（失明なし）

能力　神威、天照、スサノオ

見稽古もどき（影分身チートの副作用で学習能力が異常に発達した）

チャクラＥＸ（修行の成果で、膨大なチャクラが無限のチャクラに進化した）

あらゆる忍術

高速戦闘、ムクロの４分の１のはやさ（ムクロは速さは神にもとどくぐらい早くなってしまった）

ヤンデレ、（ムクロ曰く、戦闘能力が１０００倍になる）

性格

ムクロ至上主義、サスケ嫌い（弱いくせに偉そうだから）、残酷、温厚？（ムクロの前だけ）

設定

クソ爺に殺されＮＡＲＵＴＯ転生させられた、原作を知らず、また、貰った能力も知らなかった。

４歳の時、何時も遊んでくれて、優しく、かっこいい、ムクロに惚れ。

近親相姦バッチこいな女の子

ムクロのためなら何でもできる。

リンの紹介（後書き）

ごめんなさい
文字数稼ぎです。

カカシの試験～必要なくね、だってカカシより強いし（前書き）

頑張ったぞ～～～～～～～～～～～～～～

カカシの試験～必要なくね、だってカカシより強いし

ハロハロ、今カカシの前にリンと立ってるよ。どうしてこうなったかというと
昨日の事だ

担当上忍との顔合わせの日のこと、

マンガで知ってのとうりカカシが来るのマジ遅い、と思いながらしびれを切らしてたら、

「おい！俺と勝負しろムクロ」とウザい雑魚が言って来ました。

「いやだし、めんどいし、お前弱すぎて話にならない」

「黙れ、いいから俺と勝負しろ、前みたいに俺の体に変なことせずだ！

それとも、俺が怖くて出来ないのか？」

と雑魚が吠えました。

（おいおい、まだ前の勝負の時、俺が変な小細工したと思っているのか？、馬鹿すぎる）

「変なこととはなんだ？まぁいいや、暇だし少しだけ遊んでやるよ」

そう言うと、サスケの取り巻き1のサクラとか言う馬鹿が吠えた

「あんた！さっきから何？前の時、せこい手を使って勝ったのに何調子に乗ってるの？」

あ～、ホントこのサスケ狂うるさいな～

「もう何でもいいから、やるんなら、かかって来い」

そういうと、バカなサスケ君は火遁の印を結んでます

（マジあれ、馬鹿ですか、周り考えろよ）

と思っているとカカシ登場さすがのバカも気ずいて印を解きました。

「あ～遅れちゃって、ごめんね～」

といったあと原作と同じように自己紹介をして、明日の試験について話されました。

その内容では、7班と8班は、別々に試験をやるらしく。俺たちは、午後からということになりました。

そんなこんなで今カカシの前にいる

「さて、試験を始めるか、お前たち、おれを殺す気で掛かって来い」

「すいません、その前にいいですか?、出来れば写輪眼を使ってくれませんか?」

「な!、何を言っている?写輪眼を使ったらどうあがいても、お前たちに勝ち目はないぞ」

「先生、俺たちを甘く見ないでください。」

と言いながら俺とリンは、写輪眼を発動させた。

「何！その歳で使いこなせるのか！」

「はいそうですよ、リンはまだ戦闘経験が少ないので完璧ではないですが、俺は、完璧ですよ」

「そうか、ならこちらも手加減はしないぞ、では、はじめ！！」

と言われた瞬間リンが動きました。

「影分身の術！火遁豪火球の術！」

そして、大勢の影分身から無数の火炎がカカシに放たれました。

（な！クソ）

お、地面に潜りましたか、やはり、経験の差は激しいなと思いながら俺は観戦しています。

（兄さんは動きませんね、どこに行ったのでｓｙ　な！）

あ～あ、つかまちゃった、

「まったく、このお嬢ちゃんどうなってるの。もう少しで火だるまになるところだったよ」

「そういうあなたも、よくあの短い時間で地面に潜れましたね」

「お前も良くきずいたな、でもいいのか、もうお前だけだぞ」

「はい、今回は、リンに自分がまだ未熟なんだと知ってほしかったのと、俺が手を出すとすぐ終わってしまうので、問題ありません」

「良く言うよ、その油断が命取りになるぞ！」

といいながら後ろから影分身で攻撃してきました。

「そっくりそのまま、お返しします！」

といって有幻覚の俺にクナイが刺さりました。

「な！！」

驚いている隙い、高速でカカシに近づいて鈴をとりました。

「何時の間に！どうなっているんだ！」

「これで合格ですよね？」

「あ・・あ・・・合格だ」

（どうなっている？確かにクナイには手ごたえがあった、なのなぜ？それに接近にも全くきずかなっかった）

「なに、驚いているんですか？ああ、さっきの事ですね、あれは幻覚ですよ、まあ～リアルすぎて幻覚なのに、幻覚の攻撃は相手に現実より少ないですが、物理的ダメージを負わせられますよ」

（なんて奴だ、幻覚で物理的ダメージなんて、こりゃあ、勝てない

は）

「分かった、試験はこれで終了だ帰っていいぞ」

「はい、じゃあまた明日」

そう言ってのびているリンを背負って帰りました。

ＰＳ

俺とリンは二人暮らしです。

カカシの試験～必要なくね、だってカカシより強いし（後書き）

ああ～天にお星さまが見える

ザブザとたたかう！（リンがね）（前書き）

やばいよ
主人公強すぎて戦わせれない！
早く変態蛇とか暁とかパワーアップサスケ
出せないかな

ザブザとたたかう！（リンがね）

かなり時間が跳びましたが、今雨隠れの里に向かってます。

一応言っときますが、普段の任務はナルト達とは別です、ですが今回は他の里を訪れるいい機会だから

一緒に来ています。でも、ナルトがうるさい、マンガでは、面白いと思いましたが、直に聞くと

正直うるさいし、うざいです。あと、サスケもサクラも睨んでくるし、なんか最悪！

お！水溜りだメッチャ分かりやす！これまじめにやってるの？

あ、でも原作3人組は気づいてませんね。

襲って来ましたね、なんかサスケかっこつけてますね。動きに無駄ありすぎですよ、もっとストレート

に言って、殴って沈めればいいのに。

少し跳びましたね、いまザブザさんが目の前にいます。

「おい、お前達さがれ！お前たちじゃ無理だ！」

とか何とか言ってますよね？でも正直ザブザ弱すぎない？俺がやれば瞬殺だよ！

まぁ〜、様子を見ますか

あ！カカシ捕まった。まったく、ナルト達に気を配りすぎだよ！

「兄さん私がやって良い？」とリンがいってきました。

（なるほど、経験をここで稼ぎたいんですか）と妹の成長に涙が出てきます！

「好きにしなさい、いざ、となったら。俺が片をつけるから」

「はい、見ててください！」

と言って、作戦をサスケに伝えてるナルトの横を通って行きました。

「う！何、出て行ってるんだってばよ」

とかけて行こうとするナルトとサスケ（おまけ）を幻術で金縛りにしました。

「おい！ムクロ何をする！早くこれを解け」

「うるさい！ここは、リンに任せろ！お前たちより１００％強いから」

「何言ってるんだってばよ！はやく、これを解け」

あ〜、うるさい、口も動かせないようにしてやる

「あんｔ　　う！」

サスケ狂もなんか叫ぼうとしたから、幻術をかけてやったぜ！

内心（後で問題にならないよな～）

「影分身の術、（変化の術）、風遁　大旋風」

お！うまい！自分を木の葉にして、風遁でザブザの近くに散らしたか

「風遁で影分身を加速させたか。速いだがその程度では」

と言いながら影分身のリンを蹴散らしていく

「この程ｄ　なに！」

「甘いですよ」と変化を解きザブザの腕をクナイで刺した。

（リン甘いよ、そこは、急所または、目か腕をを完全に使えないよ

うにしなきゃ）

と思ったけどカカシも解放されたし、いいとするか

後は、原作道理カカシがザブザを倒しました。

リンがほめてと来たので、ほめましたが。正直、万華鏡写輪眼を使

わないとザブザさえも倒しきれないのは

問題ですね。まぁ、今回は、頑張ったのでほめておきますか。

（あ～かわいい、持ち帰りたい～、）と思いながら、喜ぶリンを眺

めました。

満腹です！

ザブザとたたかう！（リンがね）（後書き）

戦闘難しい

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8376z/

幻と剣を統べる幻想

2011年12月28日00時57分発行